

釣れ釣れなるままに

2006年思い出の釣行記 PART.



☆開催日	平成18年9月10日
☆開催場所	東静内港～鳧舞港
☆入釣場所	春立漁港→春立4区
☆潮	満潮 04:28 151cm 干潮 10:37 52cm
☆天候	晴れ 朝方雨 波1.5m
☆エサ	イカゴロ60 カツオ6本 サンマ2本 イソメ1箱 ソイアブラコカジカ2袋 イサダブロック3

☆釣	果	アカハラ	383	mm
		ハゴトコ	263	mm
		重量	214	0g
☆成	績	合計点数	860	点
		成績	2	位
		持ち点	3	点
		累計点	13	点 (⑦欠①②③)

キャスター

出発時になって、移動用の荷積みキャスターを砂川に置き忘れてきたことに気付く。本日の晴天と好釣祈願にと酒を飲んでいたり、女房にホームマックまで送らせた。店員に尋ねると、丁寧に案内してくれたのだが、「鉄製の荷台の付いた大型のもの」「お年寄りが一服することができるようにと座椅子の付いたもの」「商店に置いてある買い物駕籠を乗せることができるもの」等々、彼方此方と連れ回されて要領を得ない。「直径10cm程の車輪が2個付いて、折りたたみ式で、ステンレスパイプ構造になっているもの」と手振りを添えて説明するのだが埒が開かない。結局自分で探すことになる。ようやく店先に並べたものを発見し、得意顔で店員に見せると「嗚呼、携帯キャスターだったんですか」とにべもない。

会員減の余波

今大会の参加者は10名だった。釣り物のない9月初めの大会を敬遠してのことと思われる。真に残念である。魚は僅かでもその魚を如何にして釣るのかという競技としての楽しみを味わいたいと思うにだが。ガラガラの車内で寂しい思いで出発した。

第7回大会が「噴火湾虻田方面」とあるだけで入釣範囲が決まっていなかったため、役員に尋ねてみた。しかし、協議中で未だ決まっていないとのことだ。私は虻田方面では一度も竿を振ったことがなく楽しみにしている。一昨年7回大会でもこの方面での予定を組んでいたが、役員で現地調査をした結果、釣り物が無いということで変更になったのだ。

私が当時、雑誌で調べて記憶にある地名を披露してみたい。虻田漁港左の岩場、アルトリ岬1番磯2番磯3番磯、ペペシレト岬、有珠海岸……。11月の他の釣り会の大会結果で見ると、静内方面と遜色はない。隣で聞いていた堀内氏がその話に割って入り、早く決めて欲しいと催促し始めた。少し酒の量が多かったためか、会の運営方法にまで話を発展させ、釣遊会の会員減は役員の実任にあると会長を迫りし始めた。会長の顔も見る見るうちに気色ばんで来る。私は、堀内氏の言っていることはもっともだが、役員が会の運営について大変な努力をしており、会員減についてもその対策に頭を痛めているのを見聞きしているので、ハラハラとした気持ちで見守った。「鹿島よ。お前がどうかせよ」と言われても、員数合わせの大会参加だけが私の使命と肝に銘じている者としては口を挟むこと

を厳に戒めている。この次の大会までに入釣範囲を決めていただければとお願いし、何とかその場を取りなすことができた。

春立漁港

23時には春立漁港に着いた。今回も2年前と同じように庄司氏と共に下りて、彼の右隣に入る。前回の不調に懲りて、仕掛けを庄司氏のものを真似て繊細なものにしている。

磯竿3号：ハリス3号レッドにチヌ6号、丸セイゴ13号・14号の孫バリ、8号片天秤鉛に誘導式で結ぶ。

竿25号：2本、ゴロネット両天秤鉛仕掛け ハリス3号 ハリ丸セイゴ13・14、チヌ6号

竿30号：カレイ誘導仕掛け

庄司氏は20号の竿を2本、ゴロ天秤鉛仕掛けで20mほどの距離を打っている。私は少しでも照明の届かない岸壁のへちを狙う。

幸先よく、私にアタリがあり30cm程のアカハラを取り込む。日本海オロロンラインのように「頻りに」とは言えないが、イカゴロにはもちろんイソメにも食いついてくる。3号竿の誘導仕掛けはアタリを見逃すことが多いのだが、竿を上げてみると確実にアカハラが食いついていた。

余裕が出て来て、3つに仕切られた港の中央に注ぐ小川周辺を見学した。川縁は深い護岸に囲まれ、その中を通った小さな流れが河口部分に広がる砂州に吸い込まれるように消えている。砂州には程よい波が打ち寄せられているが、下りていくことは出来ない。釣り場に戻り、再度打ち直してみるが38cmを超えるようなものは出ない。満潮時を迎えたので、婿を探しに4区方面への移動を決意する。

春立4区

舟揚場コンクリート斜路の横に陣取り、30m先に出た小岩右前方に広がるプールを狙って遠投する。しかし、釣れてくるのはハゴトコのみだ。舟揚場を一つ右（旗ポールあり）に移動する。この辺りでは一番の大岩の左のプールを狙って遠投する。やはり、ここでもハゴトコのみである。潮が少し引いてきて一面に広がる青草の頭が揺れ出したので、その中に近投したゴロ仕掛けにチビカジカがきた。

8時半、ようやく舟揚場前の岩盤に乗ることができた。岸壁から最初のカケアガリまでの距離の約半分程度のところだろうか。1時間、集中して打つもハゴトコのみ。根掛かりくり返す。

カケアガリ手前の浅い岩盤一带に、青草が広がっている。最干潮時の10時を迎えているのにまだ潮が引ききらないでカジカが泳いでいてもおかしくない模様である。しかし、この海水温では無理だろう。カジカが寄りつく10月以降の満潮時に、ここを狙ってみることにしよう。距離は

- ①防潮堤上からネット仕掛けを振り切ってカケアガリの先20m付近。
 - ②防潮堤上からゴロネット仕掛けを振り切ってカケアガリ付近。
 - ③防潮堤上からゴロネット天秤鉛仕掛けを振り切ってカケアガリの前の青草付近。
- である。

審査結果は

審査結果			
優勝	堀内正博	1067点 (アカハラ422mm+カジカ 351mm+2940g)	三石
準優勝	嵐光博	908点 (アカハラ407mm+ハゴトコ259mm+2420g)	東静内
3位	鹿島釣狂	860点 (アカハラ383mm+ハゴトコ263mm+2140g)	春立漁港
4位	山岸伸	849点 (アカハラ405mm+ハゴトコ224mm+2200g)	東静内
5位	庄司幸吉	828点 (アカハラ360mm+ハゴトコ250mm+2180g)	春立漁港
身長優勝	堀内正博	42.2cm (アカハラ)	三石

だった。やはりこの時期、婿になるものは堀内氏のカジカ1匹だけだった。